



ペルー、クントウル・ワン神殿遺跡の石彫、紀元前 800 年頃 (©クントウル・ワン調査団)

天界にCONDOR 地界にジャガー 冥界にカイマン

古代アンデスの聖なるモノたち、その構成原理と表現

建築博物教室 第6回 公開ギャラリーセミナー

神々のアーキテクチャ

鶴見 英成 (東京大学総合研究博物館 助教/アンデス考古学)

日時：2015年3月28日(土) 13:30~15:00

会場：東京大学総合研究博物館小石川分館2階「空間標本」展示室

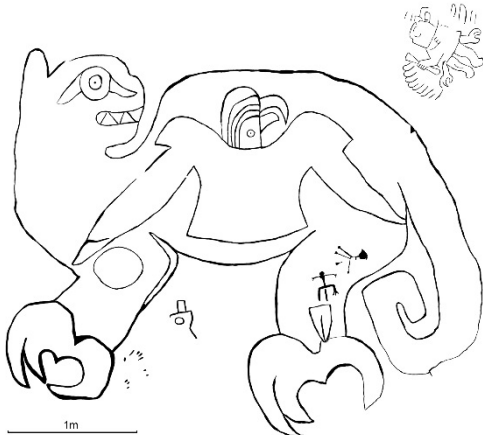
入場：無料 (事前申込不要)

神々のアーキテクチャ

鶴見 英成



クントウル・ワン遺跡「蛇目・角目ジャガー」の石彫(©クントウル・ワン調査団)



モスキート遺跡の岩絵(ネコ科動物、猛禽、翼の生えた人物)



チャビン・デ・ワンタル遺跡「テーヨのオペリスク」

長い旅の末に南米大陸のアンデス地域にたどりついた人類が、独自に作り上げたアンデス文明。16世紀にインカ帝国を征服したスペイン人たちは、インカの人々が太陽を「神」とあがめていたと書き記しています。しかしアンデス文明には文字がなかったため、人々がいつから、どのような「神」を信仰していたのかは定かではありません。紀元前の時代までさかのぼると、人々が大規模な公共建造物を築き、祭祀を行うようになったころから、人間や様々な動物が複雑に入り交じた奇怪な図像がアンデス美術に現れます。古代アンデスの人々は自然界を観察し、彼らなりに宇宙の秩序を理解しようとしたのです。一見混沌とした図像はどのような原理で構成されているのか、そして神殿建築の中に石像や壁画を配置して彼らは何を表現しようとしたのか、考えてみたいと思います。



鶴見 英成 (つるみ えいせい)

略歴:

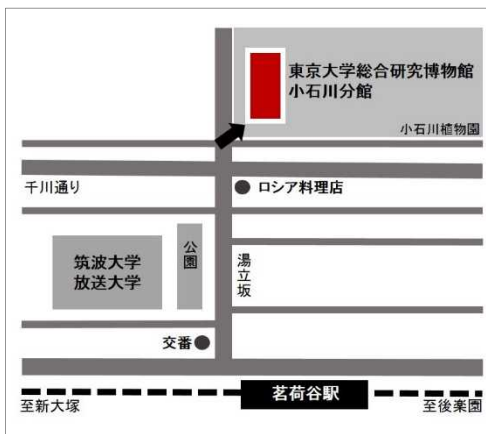
- 1996年 東京大学文学部(考古学)卒業
- 1999年 東京大学大学院総合文化研究科(文化人類学)修士課程修了
- 2005年 日本学術振興会特別研究員 PD
- 2008年 東京大学大学院総合文化研究科にて博士(学術)取得
- 2009年 東京大学総合研究博物館 特任研究員
- 2012年 現職

著作:

- 西野嘉章・鶴見英成編『黄金郷を彷徨うーアンデス考古学の半世紀』東京大学出版会、2015年



ペルー北部海岸「蛇目・角目ジャガー」の鎧型ホルトル器



東京大学総合研究博物館小石川分館

〒112-0001 東京都文京区白山3-7-1
Tel. 03-5777-8600(ハローダイヤル)

開館時間: 10:00-16:30 (入館 16:00 まで)

入館料: 無料

休館日: 月・火・水曜日

(いずれも祝日の場合は開館)、年末年始、その他博物館が定める日

アクセス: 地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅より徒歩8分

<http://www.um.utokyo.ac.jp/architectonica/index.html>

建築博物館とは?

「アーキテクチャー」をテーマにさまざまな分野の研究者が講演を行い、関連した標本を「アーキテクトニカ・コレクション」として展示していくシリーズイベントです。

建築ミュージアム / アーキテクトニカ

KOISHIKAWA Annex.

UMUT

東京大学総合研究博物館小石川分館